



昨年度、入賞者多数！

夏の特別講座

MEIKYO 思考トレーニング(Shikotre)2012

今年の夏も、読書感想文&意見文トレーニング！

名教
新学習指導
要領
対応宣言！

Shikotre——もう覚えてくれましたか？ 名教生限定、夏の特別講座「思考トレーニング」のご案内です。この講座もおかげさまで3周年。これまで、新聞を活用したり、ディベートをしたり、読書感想文を書いたり、いろいろな活動に取り組みました。そして、その取り組みは、一昨年は、中日新聞で紹介され、昨年は、読書感想文の入賞者が多く出ました！（みなさん、よくがんばりましたね！）

講座の目的は、これまでと変わらず、「頭を鍛えること」。頭を鍛え、思考力の向上を目指します。

今年のShikotreも、ちょっと本気の作文講座です。初めて実施した昨年は、子どもたちの様々な反応に、私たちも思考錯誤しながら進めました。その経験とノウハウを活かし、さらにパワーアップして、「今年は、よりよいものを！」とスタッフ一同、意気込んでいます。昨年、参加した人たちも、そうでない人たちも、みんなそろって、取り組みましょう。

（以下、作文の大切さを語ります。昨年と同じ文章ですが、昨年、ちゃんと読んでいない方は、ぜひ、お読みくださいね。）

作文は大切——文章を書くことの本質を体験し、実践しましょう。作文＝読書感想文、意見文、小論文とは、自分の思いや考えを文章

にまとめることを言います。作文力の大切さはどれだけ強調してもしすぎはありません。作文の訓練は、それ自体が上達することよりも、思考力・表現力の全体的な強化にそのままつながることに意義があります。どの教科のどの問題も、日本語で考え、解答を導くのですから、すべての知的能力の根源が作文によって向上するのです。機会さえあれば一刻も早く生徒に取り組ませたくてなりません。

感想文からはじめる作文力アップ——夏休みと言え、読書感想文。夏休みの悩みのタネ、という人も少なくないはず。どちらかという面倒なこの課題を、作文力アップのきっかけにしましょう。

教えると、ちゃんと書けるようになります！

残念なことですが「作文が大好き」「作文が得意」という生徒は多くありません。夏休みの定番「読書感想文」も仕方なく重い腰を上げて、なかなか進まず苦心して……。なぜこんなに難しいのでしょうか？ 理由ははっきりしています。「何をどう書くか」というまとまった方法を教わった経験がないからです。文章を書くことは、話すこととは異なります。

思いつきで言葉を並べるだけではダメ。構成の仕方、作文の書き方を、ちゃんと教える必要があると考えます。

何をどう書くか。「読み・考え・構成し・書く」をきっちり指導します——作文は「方法さえきちんと指導すれば」それほど難しい課題ではありません。

読書感想文の基本構造は「読書・発見・決意」の3段構え。まず、これをしっかりと意識することからスタートします。

次に「本の読み方」「ポイントの見つけ方」「設計図の描き方」「文章の仕上げの技術」の順で指導します。ポイントは、設計図をイメージして（実際に作って）から書き始めることです。

ある文筆家のことばです。「文章は最後から書く、って変な印象を与えるかもしれませんが、本当です。なぜなら、行き当たりばったりでまとまりのある文など絶対書けないからです。はじめの1行を書いて、次の行に進んで、そして……なんて書き方は基本的に不可能です。まず、原稿用紙の枚数に応じて、もっともいいことは何かを決め、それを伝えるためにどんな素材を使うかを決め、大体の設計図を描き、それから始めて書くのです。料理もそうでしょ？ 何となく素材を集

めて無造作に放り込んでも、上手くいくわけがない。やはり出来上がりの味や姿のイメージがあって、素材や手順が選ばれますよね。文章も同じことですよ。」

実は、私自身の意見文が中日新聞に載りました！ 「先生も、書いてよ！」こんなことをいう子どもも多くいます。その通りです。子どもたちにだけ書かせるのでは、示しがつきません。ちゃんと私も書き、日々のトレーニングを積んでいます。そんな私の意見文は、中日新聞の読者意見欄に、何度か取りあげていただいています

がんばろう日本！

東日本大震災の発生以降、募金活動などこれを支援する取り組みが各地で続いています。今年の夏は、大人も子どもも、節電などいろいろと考えながら行動することになると思います。

今夏のShikotreも、「がんばろう日本！」企画として実施します。今回、お願いする費用は、受講協力費としてお預かりし、教材費実費をのぞき、義援金として中日新聞社会事業団に送金します。保護者の皆さまにおかれましても趣旨をご理解いただき、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

（塾長 西川陽祐）

目指せ、
感想文入選！
新聞掲載！

時間のある夏休みを活用し、名教でも、子どもたちに考える機会を与えようと思います。今年の夏も、読書感想文&意見文トレーニングです。読書感想文は、学校の宿題にもなります。子どもたちにとっては、一石二鳥のちょっとお得な企画です。

●どんなことをするの？

その1 感想文入門とミニ感想文製作

——感想文とは「何を」「どう」書けばよいのかを講義。その後、ミニ感想文を書いて、実際に体験してみましよう。どんな感じで感想文を書くのか、イメージがつかめたら、「書く素材を集める」ための読み方を学びます。

※この際に、おすすめ本リストを配布します。本は、その中から選んでください。

2回目の授業までに、本を読んできてもらいます。本を読みながら、書く素材になりそうなところに付箋を貼ってこよう。

その2 感想文メモを作ろう！

——感想文のもとになるメモ作成術を講義。感想文のもとになるメモを作ります。

その3 素材をまとめ、設計図を作ろう！

——素材をまとめ、ならべ、感想文を組み立てる方法を講義。目でわかる設計図を書きます。

その4 清書前のチェック&清書

——字数の調整、原稿用紙の使い方、題名を考えるなど、好印象を強めるための「お化粧」をします。

その5 意見文トレーニング

——文章の書き方の構造は、意見文、小論文だって同じ。感想文が仕上がった人は、これに挑戦しよう。書いた文章は、中日新聞の読者投稿欄に応募します（もしかしたら、君の作文が新聞に載るかも・・・!?）。

- ・第2回以降は、生徒一人ひとりが書いた素材をもとに、グループ別の対話式で授業を進めます。
- ・宿題は、原則として、本を読んでくることだけです。それ以外は、塾で仕上げます。
- ・第2回以降は、生徒によって進度が異なってくる可能性があります。早く完成した場合は、意見文を書くことに挑戦しま

す。感想文に長くかかる場合も、感想文は必ず完成させます（その4までは、全員が必ず取り組みます）。

- ・よくある『読書感想文の書き方』といったハウツー本は、文例集をマネして書いてみようといったスタンスで書かれています。そうした方法ではなく、書き方を指導し、子どもたちの考える力を引き出すことを目指します。
- ・読書感想文は、学校によって必須の宿題にしている場合と自由課題にしている場合など、その対応が異なります。いずれの場合でも、感想文を書くことには大変な意義があると考えます。
- ・また、中学生は、国語科の「関心・意欲・態度」を評価する際などの材料となっている場合もあります。宿題だからとか、内申のためというのが主目的ではありませんが、ぜひ、この機会にチャレンジしてみましよう。

●講座概要

チーム	日程・時間	対象
平日コッ ツ コッ ツ	□7月30日(月)～8月3日(金) 8月6日(月)～10日(金) 16:00～17:00 夏特訓期間中、スクールバスを利用する人のうち、Shikoトレに参加する人は、行き便を15:00台のバスに変更可能です。「夏特訓！2012出席予定表」（グレーの用紙）に、ご記入ください。 ※7月30日(月)は、本選びなどをみんなで行うので、必須参加です。その他の日は、個人ペースで書き上げていくので、自由参加です。5日以上は参加して下さい。	小3～6 中1～3 名教会員と、その紹介を受けたご兄弟・友だち 小1・2は、 <u>ご相談ください。</u>
土曜集 中	□7月21日(土)、7月28日(土)、8月4日(土) 19:00～21:00 ※上記日程で読書感想文が書きあがらない場合は、夏特訓期間中に追加指導を行います。 ※4名限定募集。	中1～3 名教会員と、その紹介を受けたご兄弟・友だち

●申し込み方法

下記の申込用紙に、必要事項をご記入の上、7月12日(木)までに、受講協力費3,000円(教材費＋義援金)を添えてお申し込みください。

き り と り

夏の特別講座 MEIKYO 思考カトレーニング（Shikoトレ）2012 申込用紙

学 年	年	名 前	※一般参加の方は、お友達の会員の名前 []	電話 番号	参加希望チーム □平日コッ ツ コッ ツ □土曜集 中
--------	---	--------	---------------------------	----------	---

受付日	受付者	経理	責任者
年 月 日			